

第1回 浦和美園～岩槻地域成長・発展推進会議

次 第

日 時 平成24年11月14日（水）
13:30～14:30
場 所 4階 政策会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

（1）地下鉄7号線延伸の方向性の判断について

（2）各種方策の推進、及び進行管理について

4 閉 会

地下鉄7号線延伸の方向性について〔浦和美園～岩槻地域の成長・発展に向けて〕

1. 地下鉄7号線延伸に関する検討経緯

(1) 運輸政策審議会答申第18号(H12.1) (右図参照)

(2) 「しあわせ倍増プラン2009」の位置づけ

「地下鉄7号線延伸は、経済性などを十分に考慮し、まちづくりと連動させて推進します。(4年以内)」

- ・数値目標等:平成24年度末までに事業着手することを目指します。
- ※事業着手:鉄道事業者による都市鉄道等利便増進法に基づく申請手続きに入ること

(3) 地下鉄7号線延伸検討委員会(H23年度)

- 県と共同設置した第三者専門家による検討委員会。
- 報告書では、採算性等の試算結果(慎重ケース)は、採算性44年、B/C=0.9(30年)となり、「都市鉄道等利便増進法」に基づく許認可の一般的な目安(採算性30年、B/C>1)に届いていない厳しいものとなった。
- 一方、「関係者の努力によって方策を展開し、沿線地域の活性化・開発等を進めることで、プロジェクトの評価を高めることが可能である」と示された。



2. 地下鉄7号線延伸実現方策検討会(H24)による検討と成果

■ 地下鉄7号線延伸実現方策検討会 (H24.4～9 計4回)

- 市長を座長とし、全庁的に延伸実現に資する方策・行程表の検討を実施。
- 単に延伸の実現という観点にとどまらず、地域の成長・発展に資する方策も検討し、関係機関とも調整を図った。
- 地下鉄7号線延伸事業化特別委員会からの提言(8/31 市長に提出)についても反映した。

方策検討会による最終的な成果

浦和美園～岩槻地域の成長・発展に向けて 《浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン》

別紙参照

【概要】

- 浦和美園～岩槻地域の成長・発展に向けた方策とその行程をまとめたもの。
- 各種方策を展開し、地域の魅力を高め、定住人口及び交流人口を増加させ、同地域を成長・発展させる。
- 浦和美園～岩槻地域の成長・発展の実現は、地下鉄7号線延伸のプロジェクト評価を高めその実現にもつながり、さいたま市全体の価値を高める。

3. 方向性判断のための考慮事項

① 検討委員会からの報告書 (上記1. (3)参照)

② 市民等のご意見

検討委員会の結果報告会(H24.3.5開催)において延伸を求める多数の意見あり。地下鉄7号線延伸事業化推進期成会が設立(H24.9.19)され、オールさいたま市として延伸機運が高まっている。

③ 延伸実現に資する方策と行程表 (上記2.及び別紙参照)

④ 関係機関等との協議・調整

〔県、国、関係機関、議会、期成会など、それぞれ協力の意向。方策についても連携・分担し実施。〕

①～④を
総合的に勘案し
方向性を判断

4. 地下鉄7号線延伸の方向性の判断

延伸の意義と地域の可能性

- ・ 速達性の向上、混雑緩和など従来の効果に加え、**新たに災害時の代替交通機能、高齢者の移手段の確保等の観点でも必要性が高まっている。**
- ・ 首都圏交通ネットワークの強化により、市民のみならず、**埼玉県民、さらには首都圏全体の発展にも効果のある路線**である。
- ・ 300haを超える開発が進捗し、**総合特区効果の波及が期待される浦和美園地区、歴史と文化に彩られた岩槻駅周辺地区**は、類まれな特徴を持ち、本市に欠かすことのできない地区である。
- ・ 当地域は、鉄道各路線や東北自動車道など**交通アクセスの利便性**がよく、それぞれの地区の特徴も加えて、
- ・ **高い成長・発展の可能性を有する。**
- ・ 同地域の成長・発展は、本市をリードする**新たな都市イメージの創造**や**地域間の絆をより強くする**など、**本市全体の価値を高める。**

新たな方向性

1. 延伸の「検討」段階から、地域の成長・発展の「実行」段階に移行する

- ◆ これからは地域の成長・発展のため**具体的に「行動」**する。(これまでは鉄道に関する検討調査が中心。)
- ◆ 「浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン」により**43の方策を推進**する。

【方策(抜粋)】

- ・ **プロデュース戦略の実施** (情報発信ウェブサイト構築、企業向けまちづくり見学会など)
- ・ **総合特区効果の波及** (浦和美園地区)
- ・ **スポーツのブランド化を図るイベントの開催** (ウォーキング、マラソン、自転車等のイベントの誘致、開催)
- ・ **歴史・文化にちなんだイベントの開催** (岩槻駅周辺地区)
- ・ **快速バスの運行(浦和美園駅～岩槻駅間)** (延伸に先行し東京⇄岩槻間の交流創出、需要の検証)
- ・ **3区<見沼・緑・岩槻>連携イベントの開催**
- ・ **教育、医療、健康、スポーツ機関等の施設誘致の推進**

2. 事業着手に向けて、方策の進行管理を徹底し、プロジェクトの評価を確認していく 〔概ね5年後を目標〕

- ◆ 方策の実施状況の確認、効果の検証、方策の改善など**徹底した進行管理**を行う。
- ◆ 方策によって**地域の定着・交流人口の増加**を図るとともに、**プロジェクトの評価を継続的に確認**して、概ね5年後の**事業着手**を目標とする。
- ・ **概ね5年後の成長目標**(浦和美園地区の基盤整備・造成が概成し、総合特区の効果が見える時期)
 - > 浦和美園地区:
 - 定住人口約4千人超増
 - 交流人口増 [商業・業務施設[来訪者8千人/日超増・従業者千人超増] 教育施設[学生千人超増] イベント開催[約3万人/年超増] スポーツ振興(例:サッカー観客回復[H23約2.9万人/試合⇒過去平均約4.2万人/試合])]
 - > 岩槻地区: 交流人口増(観光機能拠点[約7万人/年超増] イベント開催[約3万人/年超増])
 - > 浦和美園～岩槻間: 地域連携の進展、公共交通利用促進による移動量増
- ・ **プロジェクト評価の目安:採算性30年、B/C(費用便益比)>1**

3. 新たな推進体制を構築して、地域の成長・発展を強力に推進する

- ◆ 市長をトップとする「(仮称)浦和美園～岩槻地域成長・発展推進会議」を設置し、全庁体制で推進する。
- ◆ **地下鉄7号線延伸対策課を組織改正・拡充**し、地域の成長・発展を追求する執行体制を強化する。
- ◆ **市、県、国、鉄道事業者による新たな連携組織として「(仮称)7号地域成長・延伸実現マネジメント会議」**を設置し、各種方策を進行管理する。

4. 政治、行政、地元など全ての人々が手を携え、地域の成長・発展と延伸を実現する

- ◆ 市民、経済界、期成会、議会、県など、**全ての人々が手を携え、「地域を育てる」、「鉄道を育てる」という同じ思いを持って「行動」**する。
- ◆ **浦和美園～岩槻地域の成長・発展と延伸実現に全力を挙げて取組み、本市の新しい未来をきり拓く。**

この資料の内容については、「浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン」のホームページに掲載しております。

浦和美園～岩槻地域の成長・発展に向けて

《浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン》

平成24年9月

さいたま市

市長本会議説明要旨（10月1日）

議長のお許しをいただきましたので、私から地下鉄7号線延伸の方向性につきまして、市長としての判断を御説明申し上げます。

地下鉄7号線延伸は、40年以上の永きにわたる地域の熱意と期待に彩られた事業であり、合併して誕生したさいたま市にとって新しい地域のつながりを示す象徴的な事業であります。私はこの事業を、しあわせ倍増プラン2009に位置づけ、平成24年度の事業着手という目標も設定し、実現に努めてまいりました。

その過程のなかで、昨年度、これまでの検討の成果をとりまとめるために、第三者の専門家による検討委員会を埼玉県と共同で開催しました。人口減少等の将来予測も踏まえた検討結果では、事業化の重要な指標である採算性、費用便益比は、率直に申し上げて厳しいものでした。この分析結果は、本事業が置かれている状況を客観的に示すものとして、十分に考慮しなければなりません。

他方で、検討委員会からは、関係者の努力により、プロジェクトの評価を高めることは可能であるとの検討結果も示されました。このことは、延伸を実現させるための行動に移るのか、それとも、厳しい将来予測をもとに断念するのか、という大きな二つの選択肢が示されたものと受けとめました。そして、私は、地域の思いと軌跡、専門家の皆様による客観的・真摯な分析、用意できた数多くの方策、手を携えてくださる多くの方々の存在などを心に深く刻みながら、延伸を実現させるための行動に移行するという判断をいたしました。

さて、検討委員会の報告の後、その検討結果を市民の皆様幅広くお伝えに回りました。それは延伸を長年求めてきた地域の思いと、厳しい将来予測が向き合うことでもありましたが、延伸実現の強い思いは、「地下鉄7号線延伸事業化推進期成会」という市民、経済界、スポーツ界など、分野と地域の枠を超えた新たな市民組織を生み出しました。市議会の地下鉄7号線延伸事業化特別委員会からも、早期実現を求める力強いご提言をいただきました。

また、この延伸は、首都圏の交通網強化に資するのはもちろんのこと、これからの高齢化時代における市民の脚となり、震災時の代替路線交通機能として都市の防災性を高めるなど、時代の新たな要請に応える大きな意義を有する事業でもあります。そして、答申に延伸が位置づけられている蓮田市の思い、埼玉県民の皆様の思いをつなぐ役割をこのさいたま市が担っているとも言えます。このような大きな意義と、市の担うべき役割も忘れてはなりません。

検討委員会からは、客観的な分析結果のみならず、延伸実現に向かうための方法として、延伸実現に資する方策と行程表を用意すべき、という大きな宿題も示していただきました。これを私は、難題ではなく、市の政策力を発揮する大きなチャンスであると感じました。そこで、速やかに全庁的な検討態勢をとり、市内の組織のみならず、職員からも広く案を募りました。さらには埼玉県、

国などからも広くアイデアを頂きましたし、議会の特別委員会からもご提案をいただきました。5ヶ月間にわたる検討作業の末、43の方策と行程からなる「浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン」という政策群にまとめました。ここには、新規の政策もあれば、既存の政策もありますし、政策分野の枠を超えた市の力を、プランに結集できたと感じております。浦和美園から岩槻にわたる地域を育てて、成長・発展を成し遂げるための大きな力を得たといえます。また、この地域が成長・発展することは、さいたま市全体の価値を高めるものであります。私自ら先頭に立って、全庁的な連携体制をとりながら方策を推進するとともに、組織などの執行体制も強化いたします。

多くの方策を推進していく一方で、延伸はやはり大きな費用を必要とする大型事業であります。広くご理解を得られる事業にすることは必要不可欠であり、実現には超えるべきハードルがあるものと考えております。つまり、定住人口や交流人口の増加などの地域の成長を達成し、採算性などの評価を冷静に確認していくことが必要であります。概ね5年後の事業着手を目標として計画的にプランを実行し、浦和美園における定住人口の増加、岩槻における観光を中心とした交流人口増加などの成長目標を達成することで、プロジェクトの評価の目安である採算性30年、費用便益比1をクリアできるよう、全力で取り組んでまいります。そして、このハードルを超えるためには、市だけではなく、多くの力も必要であります。

期成会や特別委員会から力強い声を頂きましたが、これまで共同して調査検討を進めてきました埼玉県とも、鉄道と地域を育てていくために広く連携していくことを確認しております。そして、本日の発表の直前であります9月28日には、鉄道・まちづくりを所掌される国土交通大臣と鉄道局長にも直接お会いして、市の取組み状況や要望をお伝えし、連携を図ることを確認してまいりました。このほかにも、鉄道事業者などからのご協力も得られる状況も整いました。多くの方々と手をたずさえて、「地域を育てる」、「鉄道を育てる」という同じ思いを持って「行動」できるものと確信いたしました。

以上のように、私は進むべき道を自らの決意と責任を持って、判断いたしました。延伸は「検討」段階から、浦和美園から岩槻地域の成長・発展を成し遂げるための「実行」段階に移行いたします。地域の成長・発展と事業の評価を確認していく必要があることから、事業化にはもう少し時間を要することになりますが、市の力を結集させることはもとより、議会の皆様、期成会など市民の皆様、さらには関係機関の方々とも手を携えながら、自らの責任と決意を持って実行してまいります。そして、浦和美園から岩槻地域の成長・発展、延伸実現という本市の新しい未来をきり拓いてまいります。

まず、方策の実施と、同じ思いを育てていく第一歩として、地域のプロデュース、すなわち、地域の成長・発展を促進するための調査と、期成会への補助という関連する予算案を追加提出するものでございます。市民の皆様並びに議員各位の御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

「浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン」方策及び行程表進行管理について

➤「浦和美園～岩槻成長・発展推進会議」における方策の推進、進行管理の徹底

- ・「浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン（以下、「成長・発展プラン」という。）」について、迅速、かつ継続的に取組むため、市長を座長とする庁内推進組織「浦和美園～岩槻成長・発展推進会議（以下、「推進会議」という。）」において、進行管理を着実に実施する。

〔計画策定時の体制と進行管理体制との関係〕




➤PDCAサイクルによる進行管理

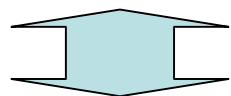
- ・推進会議では、方策に実施状況、効果測定結果を検証するとともに、PDCAサイクルにより、方策の改善、補完を行う。
- ・また、「成長・発展プラン」に基づき、3年毎にⅠ期（H24～26）、Ⅱ期（H27～29）、Ⅲ期（H30～32）に区分し、区分の最終年度において、方策の進捗状況、効果の総括を想定し、次期の取り組み方針を整理する。
- ・また、地下鉄7号線延伸の事業着手と成長目標（定住人口・交流人口増等）に十分配慮し、需要予測、採算性、B/Cについて継続的に再算定し、プロジェクトの評価を確認する。

〔PDCAサイクルによる成長・発展プラン進行管理の進め方 イメージ図〕



■浦和美園～岩槻地域成長・発展推進会議 スケジュール(案)

	平成24年 10月	11月	12月	平成25年 1月	2月	3月	平成25年度以降
推進会議		○第1回 (11/14) ・進行管理の 進め方等			○第2回 (2月上旬) ・H24総括 ・今後の進め方		 方策の進行管理 ・方策の補強 《適宜会議を開催》
作業部会		○第1回 (11/14) ◆推進方策調査 		○第2回 (1月中旬) ・推進方策 とりまとめ			
備考	★10/1 方向性判断						○毎年、年度末(2月頃)に 成果の見通し等を確認 ○次年度の第1回推進会議 で目標設定、改善等を協議



情報共有、方策の共同実施

【その他 関係機関との会議】

- 7号地域成長・延伸実現マネジメント会議(市、県、国、SR,鉄道・運輸機構)
- みそのウイングシティ事業連絡調整会議(市、UR)

【市民組織】

- 地下鉄7号線延伸事業化推進期成会(商工会議所、自治会、大学等)

今後の地域の成長・発展と鉄道延伸の流れ

浦和美園～岩槻地域の成長・発展の実行

①定住人口増加のための行動

浦和美園地区の住民の増加

②交流人口増加のための行動

岩槻の観光客増加、浦和美園の通勤・通学増加

鉄道の成長・発展の実行

③埼玉高速鉄道利用促進・支援

乗車人員の増加、経営の安定

延伸線の検討
(採算性、B/C)

①、②、③の成果で
採算性30年、 $B/C > 1$ をクリアし
鉄道事業の申請

事業化

首都圏全体の成長・発展への貢献
さいたま市全体の成長・発展
浦和美園～岩槻地域&鉄道の成長・発展

これまでは・・・

・延伸線の検討
(採算性、B/C)
・要望活動

鉄道事業申請

事業化

(延伸そのものが自己目的化する傾向)

第1回 浦和美園～岩槻地域成長・発展推進会議 議事概要

1. 開催日時：平成24年11月14日（水）13：30～14：30
2. 場所：さいたま市役所 4階 政策会議室
3. 出席者：（座長）清水市長、（副座長）小林副市長、木下副市長
（推進会議） 技監、政策局長、財政局長、市民・スポーツ文化局長、環境局長、経済局長、都市局長、見沼区長、緑区長、岩槻区長
（作業部会） 財政課長、企画調整課長、文化施設建設準備室長、スポーツ振興課長、産業展開推進課長、環境未来都市推進課長、農業環境整備課長、農業政策課長、都市計画課長、観光政策課長、都市公園課長、都市交通課長、まちづくり総務課長、みどり推進課長、岩槻まちづくり事務所長、浦和東部まちづくり事務所長、道路計画課長、道路環境課長、岩槻区観光経済室長、岩槻区コミュニティ課長、緑区コミュニティ課長、見沼区コミュニティ課長

4. 議事概要

（1）座長あいさつ

- 地下鉄7号線の延伸については、平成24年10月1日に市議会の本会議において、延伸を実現させるための行動に移行するという方向性を判断。
- 今後は、「浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン」に整理した、43の方策を推進していく。
- この地域が成長発展することは、さいたま市全体の価値を高めるものである。
- 推進会議は、私が先頭に立って、全庁的な連携体制をとりながら方策を推進するものであり、浦和美園～岩槻地域の成長・発展、地下鉄7号線の延伸実現という、本市の新しい未来を切り拓いていくものである。
- 本日出席の方々には、推進会議の主旨をご理解の上、方策推進の進行管理に全面的な協力をお願いする。

（2）事務局より、「地下鉄7号線延伸の方向性の判断について」、「各種方策の推進及び進行管理について」について一括して説明。

- 推進会議の設置について、地下鉄7号線に関する最近の動向について、説明・報告。
- 方策及び行程表の進行管理の進め方、推進会議のスケジュールについて説明。

（3）意見交換（委員等の発言）

① 進行管理について

- 「浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン」に整理した43の方策について、1～2年間かけて重点化すべき方策を絞り込み、別途管理していくことも必要ではないか。

② 進行管理を行う方策について

(スポーツ振興やイベントの方策について)

- スポーツ振興やイベントは、なるべく浦和美園地域での実施をお願いしたい。

(企業誘致の方策について)

- 企業誘致は、浦和東部第二地区や岩槻南部新和西地区で計画している街区の活用を検討してほしい。
- 企業誘致を促進するインセンティブの検討については、各局でやれる対応など多角的な検討をお願いしたい。

(みそのウイングシティ土地利用の見直しについて)

- 土地利用の見直しを行う場合には、URとの調整、地元の説明などの事前の調整が必要。

(ブランドイメージ戦略について)

- ブランドイメージの方策を推進するには、URとの調整を行い、対外的に発信する内容やコンセプトを整理したうえで情報発信することが必要。
- 情報発信は、発信内容とともに、どこでどのように発信するかが重要。
- 浦和美園地域に地元住民や学生等いろいろな立場の人を入れたプロデュース組織を設置してブランドイメージを確立し、まちづくりの実行主体を1本化していくような取組に期待。

(浦和美園駅～岩槻間快速バスの運行について)

- 快速バスの運行について、現在、浦和美園～岩槻間では路線バスが走っており、朝・夕方は混雑して乗り切れない人も出ている状況だが、昼間は人があまり乗っていない時間帯もあることから、有効な運行方法などを検討することが必要。

(岩槻駅周辺における歴史・文化にちなんだイベントの開催について)

- (仮称) 将軍行列等の新たな地域イベントだけでなく、既存の種々のイベントも強化し、他地域との差別化を図ることが必要。
- 岩槻駅周辺で実施されているイベントの運営は個別に行われており、多数ある運営主体を一本化することが必要。

(4) まとめ

- 今後、「浦和美園～岩槻地域成長・発展プラン」43方策について、事務局が関係所管へヒアリングを実施する。

[事務局] 政策局 東部地域・鉄道戦略室